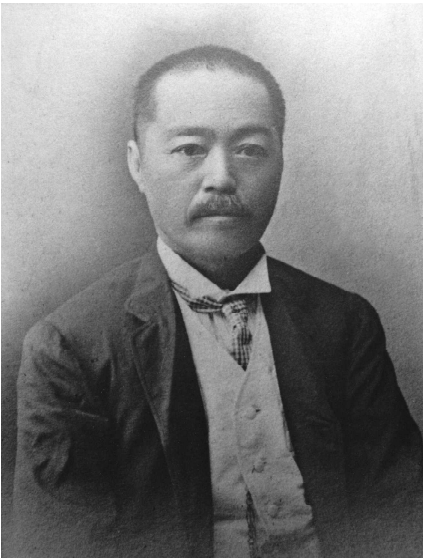


おお おか まさし
大岡 正

もう一意気、国家に奉公せん —水力発電のパイオニア—



大岡 正 (1855 ~ 1909)
 写真：大岡宏氏提供

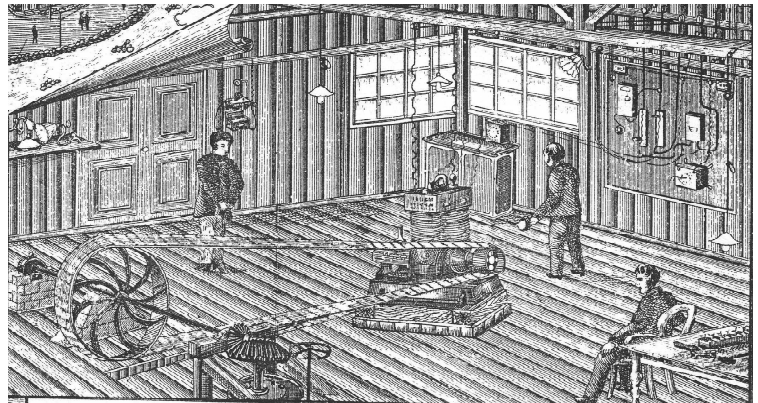
水力技師大岡正は、わが国水力発電のパイオニアである。遠距離送電の実用化に成功し、中部地方を中心に数多くの水力発電所建設に携わった。大岡は、安政2(1855)年9月、旗本鳥山徳右衛門の子息として江戸牛込に生まれた。同年10月に起きた安政江戸地震で両親を失い、旗本大岡家の養子となった。戊辰戦争の際は、榎本武揚の率いる開陽丸に乗船して奥州に向かおうとして失敗し、捕縛された。

■日本2番目の水力発電所、箱根電灯所湯本発電所

1930(明治5)年、逓信省電信寮に入り、電信技師として電信線建設に15年間従事した。1887年頃、米国での水力発電の勃興を知り、水力発電に生涯を賭けたいと思うようになった。1889年8月、水力地点を探して箱根山中を探索し、地元福住九蔵の協力を得て箱根電灯所を起し、水力発電所の建設に取り組んだ。1892年6月わが国2番目の水力発電所として湯本発電所(直流25

kW)を完成、湯本、塔ノ沢に電灯を供給した。

湯本発電所の完成以降、大岡は、浜松電灯富塚発電所(1893年)、豊橋電灯梅田川発電所(1894年)、熱海電灯熱海発電所(1895年)、郡上八幡乙姫滝発電所(1898年)等を手がけたが、流量測定の不備、機械の不完全等も重なってトラブルが続き、時には山師呼ばわりされることもあった。



箱根電灯湯本発電所内部 出典：「神奈川県下箱根電灯発電所之景」

■長距離送電の画期となった岩津発電所

大岡の水力事業の画期となったのは、岡崎電灯岩津発電所である。1887(明治30)年7月、中部地方で最初に成功した水力発電所として、矢作川支流の郡界川に岩津発電所(50kW)を建設し、交流2000Vで岡崎町までの16kmを送電した。この送電距離は水力発電の可能性を一挙に広げるものであった。

大岡は、岡崎電灯の関連会社、三河電力の発電所建設にも関わり、1902年9月、矢作川の支流田代川に小原発電所(100kW)を建設した。瀬戸町に送電した後、名古屋に進出し、名古屋電灯と熾烈な競争を展開したが、1907年6月名古屋電灯と合併した。

■水力ブーム下の水力発電所建設

岩津発電所の成功により、大岡は水力技師としての評価が高まった。明治30年代後半から各地の水力事業者から相談が寄せられ、岐阜電気粕川発電所(揖斐川町)、中津電気大西発電所(中津川市)、巖倉水電巖倉発電所(伊賀市)、明知町営矢伏発電所(明知町)、福島電気杭ノ原発電所(木曾町)の建設に携わり、生涯に関わった発電所は18個所に及んだ。



岡崎電灯岩津発電所

出典：『愛知県写真帳』明治43年

1909(明治42)年2月、54歳で没した。

(浅野伸一)